

多賀地区タウンミーティング開催報告

【日 時】令和5年2月1日（水）19：00～20：30 【場 所】多賀公民館 2階集会室

【参加者】多賀地区連合自治会長など全15人

市長、公民館長、市民生活部長

- 【次 第】
- 1 開会
 - 2 挨拶（多賀地区連合自治会長）
 - 3 市長挨拶・事業説明（別添資料）
 - 4 地域の活動報告（多賀・未来づくり準備会）
 - 5 事業説明：テーマ（1）自治会活動の活性化（2）子どもの居場所づくり
 - 6 まとめ・閉会

概 要

【自治会長挨拶】

本日は、お集まりいただき感謝申し上げます。昨年度はコロナ禍で中止となったが、今年度は開催でき喜ばしい。タウンミーティングは市と連合自治会が共催し、各地区で開催している。私たちの考え、各団体で話し合っていることなど、地域の声を市長にお聴きいただき、今後の行政、多賀地区の団体運営に反映していただくことを願っている。これからの発展を念頭に話し合いをしたい。

活動報告（多賀・未来づくり準備会）とテーマ提起の経緯

これまでの取り組み

- ・令和元年8月のタウンミーティングで、「防災」、「各種団体や地域でのつながり」に関する意見が多く出た。
- ・最近では核家族化が進む一方で独居高齢者の増加、空き家の増加、新型コロナの影響もあり地域行事の縮小・中止など、人付き合いが疎遠となり様々な地域課題が浮き彫りになった。
- ・このままではいけないと危機感を持った前連合自治会長の呼びかけで、地域づくりの話し合いがスタートした。

準備会の発足

- ・意見交換を重ねる中で協力してくれる団体が増えていき、つながりを強化させ、足りないことを補い合いながら、令和3年7月に準備会を発足。
- ・様々な団体・個人がつながり、現在18団体33人で構成された準備会は、多賀を良くしていくことを第一に目指し、活動中。
- ・昨年参加している東予東中学生の生徒からは、前向きで堂々とした意見が出ている。

地域未来ビジョンの作成

- ・キャッチコピーは「『安全・安心』『ありがとう』のまち」。
- ・なりたいまちの将来像に近づくため、今できていないと思うこと、またコロナ禍で困っていることを地域の皆さんにアンケートした。
- ・アンケートの結果、課題の一つとして自治会の活発さがなく、加入者増加の取り組みが足りない、自治会で顔を合わせる機会が減った、イベントがなく、子ども達が集まる場所がないなどが挙げられた。
- ・「子育てしやすいまち」への課題について準備会で協議していたが「子育て世代の意見を聞けていない」という状況に気づき、令和4年10月に準備会と子育て世代であるPTA、愛護班との意見交換会を実施した。
- ・意見交換会では、核家族、共働き世帯が増え、子どもの友達の家庭や公園へ遊びに行かせることへの不安があるといった意見が多く出た。

アンケート、意見交換会を終え、二つの課題を今回のタウンミーティングのテーマとした

- ・「みんながつながる仲良しのまち」に向けては、自治会の加入者低下や地域イベントによるコミュニケーションが不足している課題がある。
- ・「子育てしやすいまち」に向けては、安心して子どもを預けられる場所、子どもだけで集まれる場所がないことや、各種子育てサービスの周知が十分にできていない課題がある。
- ・この二つの課題について、行政と地域側で活発な意見交換を行いたい。
- ・将来、子どもが多賀で生まれ育って良かったと思える地域づくりをしていきたい。

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
防犯灯の維持費	
<p>蛍光灯からLEDへの取り替えにかかる補助金（3割以内、上限5万円）が今年度で終了予定だが、継続してほしい。防犯灯の設置は、自治会活動のメリットの一つ。地区内にはまだ暗いところがある。</p>	<p>令和4年12月末現在、市全体で約93%がLED化している。LED化により年間の電気代が約2,000円抑えられる。まだの部分もあると思うが、どこかで期限を設けなければならないと思う。</p> <p>令和5年度以降は1灯あたり500円の電気代を補助し、負担軽減を図っているのご理解いただきたい。</p>
ごみ分別の徹底	
<p>分別が徹底されておらず、回収されずにごみステーションにごみが残されている。また自治会員以外が勝手にごみステーションを利用する場合もあり、処理が自治会任せになっている。ごみ袋の有料化開始後、自治会にはごみステーション管理用として袋を配布するとのことだが、まずは分別の徹底をしなければならない。ごみ袋の購入時に分別のチラシも付けてはどうか。</p>	<p>広報紙2月号と一緒に新たな分別ガイドブックを全戸配布している。今までのものより、わかりやすくなるよう心がけて作った。</p> <p>ルールを守らない者が自治会にご苦労をかけている。この負担を少なくするためにも、4月から新たなスタートを切る。その後も継続的にチェックし、改善を加えていきたい。</p>
3世代交流の促進、活動支援	
<p>子どもを安心して預けられる場所がないという課題があった。今ある子育て支援制度を活用することが一番だが、自分が参加する地域の活動の中でも子どもの居場所づくりができないか考えている。</p> <p>例えば、社協のサロン事業は、高齢者の交流を通じた生きがいづくりの場となっているが、そこで趣味を活かした手芸などを子どもに伝えることができれば、一緒に交流できるのではないかと思う。</p> <p>このような世代間交流に対して何か市で支援策はないか。</p>	<p>子ども達だけでなく、高齢者にとっても交流によって得られる喜びがある。場所を新たに設けることは難しいが、今ある施設（公民館、学校（放課後児童クラブ））を有効活用してほしい。</p> <p>活動支援として、市の公金による直接的な助成ではないが、例えば、コミュニティ財団の助成プログラムの活用や、郵政の助成金制度もある。</p> <p>また、市民活動支援センターではNPO法人や活動団体のサポートを行っている。一定の登録要件を満たすNPO等の団体に対しては、ふるさと納税を活用したNPO等指定寄附制度による資金調達の支援を行っている。</p> <p>子育て関係で言うと、市内でも「子ども食堂」が開設されており、このような助成を利用しながら活動している。</p>
コミュニティスクールの推進	
<p>地域の方と子どもの交流という点では、令和6年度から全小学校で開始するコミュニティスクール（地域とともにある学校づくり）に向けて多賀小学校でも準備している。</p> <p>多賀には「多賀・未来づくり準備会」という組織があり、ぜひ皆さんにも学校へ来ていただき、子ども達との交流の時間を増やしていきたい。地域の方々のご協力をお願いする。</p>	<p>コミュニティスクールでは、地域の皆さんも学校運営に関わり、どんどん学校に入っていく。様々な場面で子ども達の居場所をつくっていきたいが、なかなかハード面の整備は追いつかず、意見を出し合って、今ある施設の中でできる取り組みを進めたい。</p>
園庭開放	
<p>多賀幼稚園では、地域の子どもの居場所づくりとして、園庭開放を検討している。今後、テストケースを実施し、検証していきたい。</p>	<p>ありがたい提案。公共施設は安全・安心を提供する場所であり、幼稚園もその一つ。テストケース実施の経過を確認させていただきたい。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
通学路の安全対策	
<p>登下校の安全について、多賀は交通量が多いが、カラー舗装（グリーンゾーン）や看板の設置、古くなった歩道橋の対応など、動いていただき感謝する。</p> <p>大きな道路の横断を心配している。愛護班の保護者が毎朝、旗当番で登校を見守っている。生活道路のため、交通量を制限することは難しいが、通学路の安全確保はもっと進めてほしい。</p>	<p>公民館の前の道も狭いが、時間帯規制やハンプ（スピード抑制のために道路の路面に設けられた凸部）をすると沿線にお住いの皆さんにも規制や騒音が出るなどの影響があるので、ご理解が必要になる。拡幅については、土地所有者の同意が必要。</p> <p>毎年、通学路安全推進連絡協議会を中心に調査を行っており、優先順位はあるが対策を講じていくので、申し出てほしい。</p>
地域のつながり、活性化	
<p>人口減少の説明で、校区ごとの消滅可能性は細かく見すぎだと思う。移住推進についても、近隣市、県などの横のつながりを大事にしてほしい。</p> <p>地域づくりに関しても、吉井や壬生川など、隣の校区ともつながるように進めてほしい。</p> <p>西条市は、港やインターチェンジが存在する交通の拠点であり、自然の観光資源も豊かである。まちが活性化するようなトップセールスを期待する。そして、過疎地域など、なかなか手をかけにくい所にも目を向け、予算を分配していただきたい。</p>	<p>移住推進においては、今治市や新居浜市と合わせて東予全体で機運が上がっている。部分最適ではなく、全体最適を追い求めたい。</p> <p>地域づくりで言うと、多賀・未来づくり準備会のように主体的な活動ができている地域の存在は大きい。地域間で刺激を与えながら競争ではなくバランスを取りながら進めたい。</p> <p>行政として、誰もが等しく受益できるサービスを整備する上で、過疎地などにもしっかりと光を当てることを心がけたい。</p>
その他：シニア世代の雇用確保	
<p>西条にUターンする60代もいる中で、定年後も完全にはリタイアせず、社会（地元企業など）と何らかの関わりを持ちたいと思う人も多い。現役時代に培った経験やスキルを活かせる場を市で創出してほしい。</p>	<p>スキルのある人材を活かすことは大切。ハローワークの領域もあるが、市ではSAIJO BASE（旧こどもの国）の中にある産業情報支援センターに「まちの人事部」を設けており、そこで中小企業等の採用力強化に向けた支援を行っている。</p> <p>大学生のUターン戦略として大阪を拠点に取り組んでいるが、若い世代に限らず、シニア層についても政策に活かしたい。</p>
その他：ダンボールコンポストの利用促進	
<p>数年前に講座を受け、ダンボールコンポストの作り方を教えてもらった。必要な材料（木炭や竹パウダーなど）を自分で揃えているが、セットにしてホームセンターなどで販売いただきたい。そうすれば、より多くの人が活用しやすくなると思う。</p> <p>また、水分が出たり、スコップで混ぜることでダンボールが傷んでしまうが、不織布の袋を入れることで長持ちする。使用したダンボールもごみになってしまうので、なるべく使い続けられるように不織布の袋もセットに入れてはどうか。</p> <p>電気代がかからずエコでクリーンなコンポストである。周知をお願いするとともに、生ごみ処理機のように補助があれば助かる。</p>	<p>たい肥化することで生ごみの排出量を減らすことができる。このような循環的な処理は非常に大切なことだと思っている。</p> <p>ご提案のセット販売は、販売元が商売として見て判断することになると思う。</p> <p>広く周知できるように考えていく。いただいたアイデアは持ち帰り検討したい。</p>
その他：マイナンバーカードの運用	
<p>マイナンバーカードは、個人の意思で取得するものだと思うが、他市の例で、カード取得者のみ給食費を無償化する方針があると聞いた。</p> <p>西条市ではそのようなことをしないでほしい。</p>	<p>西条市のマイナンバーカード交付率が全国平均を上回るように取り組んできた。カードによって行政サービスの利便性を高めることを目的としているが、給食費軽減の条件にするような運用は西条市では考えていない。</p>

参加者の発言要旨	市の発言要旨（及び対応）
その他：給食費の低減	
<p>来年度から一食あたり小学校で20円、中学校で30円引き上げられると聞いた。 保護世帯などは給食費を免除され、市の財政で負担しているが、給食費が高騰すると保護者も市も負担が大きくなる。 近隣他市に比べ、西条市は給食費が高いようだ。他市とも連携して給食費を抑えていただきたい。</p>	<p>学校給食は、経費全体のうち食材料のみを保護者にご負担いただいている。食材費の価格高騰による値上げだが、一食あたり10円を市が補助し、保護者の負担軽減を図ろうと予算を立てているところ。 食育や生産者への感謝の点から、地産地消に取り組んでいる。（仮称）東部給食センターの整備も進めており、地元の食材を大量に扱うことでコストの圧縮も見込める。 優れた栄養士が献立を考えており、できるだけ安価においしいものを提供できるようにしたい。</p>
<p>【まとめ】 <市長> 地域の皆さんが地域のことを思って頑張ってくれている。多賀、西条を良くしたいという皆さんの思いに行政も応えなければならない。 皆さんと一緒にSDGsやごみ問題に取り組みたい。少しずつでもみんなが進むことがまちづくりにつながると思う。 <連合自治会長> 未来づくり準備会を中心に皆さんの声を届けることができた。今日の意見、市長からのお話をこれからの地域づくりに活かしたい。 <当日の様子></p>	

